

■「自己評価」欄について  
 ◎:計画した取組について想定どおりまたは想定以上の規模で実施し、想定を超える効果が得られた(80%以上)。  
 ○:計画した取組について想定どおり実施、想定とほぼ同水準の効果が得られた(60~70%)。  
 △:計画した取組について想定を下回る規模で実施した、または想定どおり実施したが不十分な効果しか得られなかった(30~59%)

貴自治体において第8期介護保険事業計画に記載している内容					令和3年度(年度末実績)				
項目名	細目名	目標を設定するに至った「現状と課題」	第8期計画における「取組」	「目標」(事業内容、指標等)	中間見直し	取組の具体的な実施内容、実績	自己評価	評価の理由	課題と対応策
①自立支援・介護予防・重度化防止	いきいきサロンの設置	当町は、高齢者の区分を見ると前期高齢者の割合が高く、要介護認定率については全国平均より低くなっている。しかし、今後後期高齢者の割合が急激に高くなるのが予想されており、一般高齢者が要支援とならないような介護予防事業の充実が課題となっている。	いきいきサロンの設置	いきいきサロン数 R3年度 R4年度 R5年度 19 20 21	なし	①R3年度いきいきサロン・子ども食堂(以下、「サロン等」)設置数21か所(サロン…18,子ども食堂…3) ②R3年度稼働数 いきいきサロン…10 今までの活動は茶話会がメインであったが、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、活動をビデオ鑑賞や講師を招いての勉強会に変更した。 子ども食堂…3 それぞれの食堂で、会食形式、お弁当の配布形式により活動した。	◎	サロン等の設置数が目標を達成した。また、コロナ禍においても開催方法の工夫によっておよそ6割のサロン等が活動を行っていることから◎とした。	【課題】 新型コロナウイルス感染症拡大防止とサロン等の活動をどの様に両立させるか。 【対応・結果】 飲食を伴わない活動への変更、弁当を配布するサロン等が活動を行っていることから◎とした。
①自立支援・介護予防・重度化防止	ロコラジさんの開催	同上	「ロコラジさん」の開催	ロコラジさん参加者数(延べ人数) R3年度 R4年度 R5年度 160人 170人 180人	なし	①町主催のロコラジさんの開催 新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止 0回 ②住民主催のロコラジさんの開催 新型コロナウイルス感染症拡大防止のため縮小開催または中止 ・丸山区 参加延べ人数:96人/開催回数:8回 ・志久区 参加延べ人数:95人/開催回数:7回 ・綾瀬北区 参加延べ人数:268人/開催回数:22回	△	町主催のロコラジさんを実施することができなかったが、フォローアップ研修を行うことで、さろん同士の情報共有を図り再開の支援をしたため評価を△とした。	【課題】 新型コロナウイルス感染症拡大防止とロコラジさんの開催をどの様に両立させるか。 【対応・結果】 令和3年度については前年度に比べると再開傾向にある。感染状況に合わせて適宜中止したり柔軟に活動できているさろんが増えてきている。フォローアップ研修を行うことで、さろん同士の情報共有を図り再開の支援をした。令和4年度については、町主体のさろんを実施予定。ほか再開継続支援のためにさろんへの訪問を行う。
①自立支援・介護予防・重度化防止	ロコラジサポーターの育成	同上	ロコラジさんサポーターの育成	ロコラジさんサポーター数 R3年度 R4年度 R5年度 20人 20人 20人	なし	①サポーター養成講座 新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止 0回 ②サポーターフォローアップ研修 ・2グループに分けて各1回開催 ・延べ21名参加	○	サポーター養成講座を行うことはできなかったが、フォローアップ研修を実施することができたため評価を○とした。	【課題】 サポーター数を増加させる。 【対策・結果】 新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、サポーター養成講座は中止した。ロコラジさんサポーター数を新たに増やすことはできなかったが、フォローアップ研修を行い、サポーターのモチベーションの維持、各地区のさろんの横のつながりなどに寄与できたと考える。令和4年度はコロナ対策として1回あたりの人数を減らし、サポーター養成講座、フォローアップ研修ともに開催予定。
①自立支援・介護予防・重度化防止	いきいき能力教室の開催	同上	いきいき脳力教室の開催	いきいき脳力教室参加者数(延べ人数) R3年度 R4年度 R5年度 390人 400人 410人	なし	いきいき脳力教室の開催 1クール12回の開催予定であったが、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、1クール8回の開催とした。残りの4回はテキストを配布し自宅学習とした。 ・1クール 12回 ・1グループ ・延べ47人参加	○	目標人数には届かなかったが、1クール開催することができたため評価を○とした。	【課題】 参加者の増加。 【対応・結果】 新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、開催回数を減らして実施。目標参加者数を達成することはできなかったが、1クールの開催回数が多いにも関わらず、それぞれ8割、9割近くの参加者が継続して参加しており、ドロップアウトが少ない。1クールの途中で、テキストを使用した自宅学習としたが、送付したテキストに対し肯定的な反応があり、学習意欲の高さが見受けられた。令和4年度は2クール開催予定。リピーターには引き続き参加してもらい、新規の参加者を増やせるように家族での参加を促していく。

貴自治体において第8期介護保険事業計画に記載している内容					令和3年度(年度末実績)				
項目名	細目名	目標を設定するに至った「現状と課題」	第8期計画における「取組」	「目標」(事業内容、指標等)	中間見直し	取組の具体的な実施内容、実績	自己評価	評価の理由	課題と対応策
①自立支援・介護予防・重度化防止	地域ケア会議でのケース検討数	今後後期高齢者の割合が急激に高くなることが予想されている。住み慣れた地域で状態が悪化しないように、また、自立した日常生活を営むことができるように、在宅で生活する上での支援を行うことが重要となっている。	地域ケア会議で行うケース検討による重度化防止に係る情報共有	地域ケア会議でのケース検討数 R3年度 R4年度 R5年度 24件 24件 24件	なし	地域ケア会議におけるケース検討 14件 原則毎月1回行われる地域ケア会議で2件の事例を取り扱う。 新型コロナウイルス感染症拡大防止の状況に鑑み、R3年4～7月、10～12月、3月に地域ケア会議を開催。うちR3年4～7月、10～12月でケース検討を行った。3月の会議ではR3年度に行ったケース検討の振り返りを行う。	○	新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、開催回数を減らしたが、6割以上開催されたため評価を○とした。	【課題】 課題解決のため関係者の情報共有を密にする【対応・結果】 新型コロナウイルス感染症拡大防止の状況に鑑み会議を開催した。 コロナ禍により皆さんの中止、外出を控える、通所サービスの利用を控えることによる身体状況が悪化するケースが見受けられた。このような状況に対応するためにも、予防事業等、地域資源を活用できるよう情報共有を図っていく。
①自立支援・介護予防・重度化防止	要介護3以上の方の在宅サービス利用率	今後高齢者の割合が急激に高くなるのが予想されている。高齢者が要介護状態となった場合でも、住み慣れた地域で安心して生活を継続するためには、その人の尊厳を保持し、その有する能力に応じた自立した日常生活を営む必要がある。そのために在宅で生活するうえでの支援を行う。	適切な介護サービスの周知	要介護3以上の方の在宅サービス利用率 R3年度 R4年度 R5年度 56% 58% 60%	なし	要介護3以上の方の在宅サービス利用率【実績】 R1年度 61.20%(平均:68.75%) R2年度 63.24%(平均:66.38%) R3年度 74.12%(平均:70.26%) ※( )・・・年度による利用率の平均値	◎	目標を達成したため評価を◎とした。	【課題】 在宅サービス利用率の向上【対応・結果】 目標を達成している。R2年度と比較すると10%以上の増加となっているが、実績値はそれぞれの年度の3月末の数字であるため、年度の平均利用率を比較するとそこまでの増加ではないことがわかる。令和4年度も在宅サービスの利用状況把握に務める。
②給付適正化	要介護認定の適正化	当町は、高齢者の区分を見ると前期高齢者の割合が高く、要介護認定率については全国平均より低くなっている。しかし、今後後期高齢者の割合が急激に高くなるのが予想されるため、介護給付を受けられる利用者が増える見込である。介護保険制度の健全な運営のため、利用者を適切に認定することが必要である。	要介護認定の変更又は更新認定に係る認定調査の内容について、町保健師が書面の審査を通じて確認を行う。	第7期介護保険事業計画では具体的な目標、評価指標の設定をしていないため、実施した件数等を過年度の件数と比較し、目標達成に向けた進捗状況を考察する。	なし	認定調査票の確認件数等 R元年度 R2年度 R3年度 確認件数 1,105件 738件 1,162件 審査会開催回数 41回 34回 47回 平均確認件数 26.9件 21.7件 24.7件	○	令和2年度と比較し、令和3年度の確認件数が増加しているが臨時的な取扱いについても適切に処理できていると考えるため評価を○とした。	【課題】 新型コロナウイルス感染症拡大防止と認定審査をどの様に両立させるか。【対応・結果】 新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、更新申請について臨時的な取扱いが示されたところである。確認件数を令和2年度と令和3年度と比較すると件数が増加しており、臨時的な取扱いも定着してきたと考える。今後も利用者一人ひとりに応じた対応を心掛ける。
②給付適正化	ケアプランの点検	今後後期高齢者の割合が急激に高くなるのが予想され、介護給付を必要とする利用者が増える見込である。ケアプランの点検をおして利用者が真に必要なサービスを確認するとともに、その状況に適合していないサービス提供を改善する。	軽度者の特例給付申請時に、特例給付申請の確認とともに申請対象者に係るケアプランの確認を行う。	同上	なし	ケアプランの確認件数 R元年度 R2年度 R3年度 22件 17件 21件	○	ケアマネジャー及びサービス利用者の負担が解消されていると考えるため評価を○とした。	【課題】 ケアプランの提出を軽度者の特例給付申請時に合わせて求めていたが、6月ごとに提出を求めており、ケアマネジャーの負担の大きさ、サービス利用者の不便さが課題となっていた。【対応・結果】 令和元年度に介護認定の有効期間更新時にケアプランを提出するよう変更しケアマネジャー及びサービス利用者の負担軽減を図った。変更に伴いケアプラン提出の取扱いに係る要領を示している。直近3年間を比較し、件数が横ばいとなり、適切な取扱いが定着してきていると考える。
②給付適正化	住宅改修等の点検及び福祉用具購入・貸与調査	今後後期高齢者の割合が急激に高くなるのが予想され、介護給付を必要とする利用者が増える見込である。認定者の増加に伴い、住宅改修や福祉用具を必要とする受給者が増加することが予想される。町が確認、点検、調査等を行うことで、不適切又は不要な住宅改修や福祉用具の購入貸与を排除し、適切なサービス利用を進める。	住宅改修や福祉用具の購入・貸与の申請に対し、申請理由と認定調査票の内容確認と併せて、聞き取りを行う。	同上	なし	福祉用具・住宅改修サービスの件数及び給付額 R元年度 R2年度 R3年度 ・福祉用具 5,324件 5,813件 6,324件 ・貸与 667,922千円 72,271千円 79,059千円 ・福祉用具 112件 123件 121件 ・購入 3,312千円 3,541千円 3,513千円 ・住宅改修 105件 114件 131件 9,281千円 12,684千円 11,706千円	○	全ての項目で増加しているわけではないが、住み慣れた地域で安心して暮らしていることに寄与できていると考えるため評価を○とした。	【課題】 令和2年度と比較し、福祉用具貸与のみ件数及び給付額が増加している。また、福祉用具購入及び住宅改修については、件数、給付額とも横ばいであるため、適切なサービス利用を周知する。【対応】 申請理由、添付写真、直近の認定調査票、窓口での聞き取り内容が適正かそれぞれに齟齬がないか確認している。引き続き適切なサービスの利用を進める。

貴自治体において第8期介護保険事業計画に記載している内容					令和3年度(年度末実績)				
項目名	細目名	目標を設定するに至った 「現状と課題」	第8期計画における「取組」	「目標」 (事業内容、指標等)	中間 見直し	取組の具体的な実施内容、実績	自己 評価	評価の理由	課題と対応策
②給付適 正化	介護給付費通知	今後後期高齢者の割合が急激に高くなることが予想され、介護給付を必要とする利用者が増える見込である。 介護保険制度の健全な運営のために介護サービスの受給者及び事業者に対して適切なサービスの利用と提供の普及啓発を図る。	介護給付費通知を受給者本人(家族を含む)に年1回送付。	同上	なし	介護給付費通知発送件数 R元年度 R2年度 <b>R3年度</b> 1,171通 1,176通 <b>1,233通</b>	○	対象者に通知を発送したため、評価を○とした。	【課題】 自己点検の効果を高める。 【対応】 自己点検の効果を高めるために、介護保険給付費通知を発送する。